

地域支援コーディネーターだより

～地域のつながり・支え合い活動を応援します～

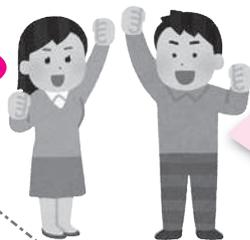
第2号

編集・発行 社会福祉法人 志摩市社会福祉協議会 地域支援課
TEL 0599-55-3885 FAX 0599-55-4014

第3次志摩市地域福祉（活動）計画を振り返って

志摩市における地域福祉の推進を目的とした第3次地域福祉（活動）計画は、平成29年4月からの5か年計画として始まりました。旧町単位の1名ずつの地域支援コーディネーターを配置し、地域との「顔の見える関係」を基礎にして、地域支援の充実に向けた取り組みを進めてきました。新型コロナウイルス感染症による地域活動への影響もありましたが、この5年間の地域づくり活動について振り返ります。

平成29年4月



地域支援コーディネーターの配置：地域の資源や課題を把握し、住民主体の地域づくりに向けて支援をスタートさせました。志摩市全域に1名、旧町単位の1名のコーディネーターを配置し、地域づくりの基盤となる互助を高めることをめざしました。

支え合い研修会：地域づくりに継続して関わる地域住民との出会いもありました。



ふくし座談会：地域住民との話し合いを重ね、地域の困りごとについて向き合ってきました。新たな買い物支援のしくみが生まれた地域もあります。

居場所づくり：コロナの影響もあり、サロン活動の自粛が相次ぎましたが、改めて交流の場の大切さを実感した声が多く寄せられました。毎年、新たなサロンも生まれています。



資源情報の見える化：地域ふれあいサロンマップ、移動販売情報、弁当配達業者一覧などをホームページに公開しました。

お弁当



地域座談会：第3次計画の推進を経た現在の志摩市における地域課題について話し合いました。（R2自治会単位の座談会、R3民間事業所や福祉関連事業所およびボランティア団体等へのヒアリングなど）

令和4年3月

第4次志摩市地域福祉（活動）計画に向けて

人口の高齢化が進み、ひとり暮らし高齢者がますます増加してきています。また、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、人と人との関りの希薄さに拍車がかかっている状況とも言えます。今後は、社会的孤立といった課題を見据えて地域福祉を考えていくことが求められています。

第4次志摩市地域福祉（活動）計画は、令和4年4月から始まります。この計画は、これからの5年間の地域福祉の推進により、志摩市に住む全ての人々が地域や社会で孤立することを防ぎ、必要があれば誰もが適切な支援につながり、自立した生活を送ることができる地域社会の実現を目指していきます。

各地区における取り組みを紹介します



志摩市全域：住民主体のデイサービス「通所型サービスB」が広がっています！

地域の住民（ボランティア）が主体となり、要支援者を中心とした地域の高齢者の自主的な通いの場として、概ね週に1回、運動機能の維持・向上を目的とした体操等の実施、趣味活動等を通じた日中の居場所づくり、定期的な交流ができる「通所型サービスB」が各地区にできてきています。みなさんが思い浮かべる介護保険のデイサービスと比べて、元気な地域の仲間が多くいるので、参加しやすいメリットがあります。現在、志摩市内7カ所で開催されているのですが、将来どこの地区の方でも歩いて通える場所にこの通所型サービスBがあるように充実させていきたいと考えています。



浜島地区：地域主体の買い物支援を応援しました！

浜島町桧山路・塩屋・迫子・大崎地区において、地域と志摩LABO（三重ダルク志摩拠点）が協働した買い物支援がスタートします。この取り組みは、志摩LABOが買い物を不便に感じている方を各地区からイオン阿児店まで送迎し、買い物中の荷物運びや付添支援をするものです。



令和3年度は4地区の自治会と志摩LABOが話し合いを重ね、試験運行を実施しました。試験運行で出た課題やニーズを精査し、地域に即した取り組みになるよう応援します。
※本格スタートは令和4年4月以降となる見込みです。



大王地区：新たな活動の場ができました！



大王町では、令和3年10月に子ども用品リユースステーション YOTTECO（よってこ）がオープンしました。

子どもやその保護者が気軽に立ち寄れる居場所と家庭に眠っている子どものおもちゃや洋服等を必要な方の下で再利用するリユース活動をしたいとの相談を受け、赤い羽根共同募金の活用等について支援を行ないました。

タイミングが良いとチャイルドシートやバウンサー等の掘り出し物に出会えるかもしれません(*^-^*)♪

住所：志摩市大王町波切2962-1

HP：<https://www.shima-kosodate.com/yotteco>
（開催日はホームページでご確認ください）





志摩地区：住民主体の買い物支援や共同農園を紹介します！

間崎 “もやい” いきいきショップ

志摩町和具4496番地2 ☎85-6767

イオン阿児店が商品を準備し、住民有志が運搬と販売をしています。このショップでは、食品や日用品を販売し、注文販売では生鮮食品の購入ができます。住民と企業が協働する買い物支援です。



和具 ぷらっと農園

志摩町和具字焼田2090番地

☎090-1414-1016(堀口)

和具地区の“ぷらっと農園”も住民有志が取り組む共同農園です。気軽に農作業をしたり、お花を眺めたり、ぷらっと来て誰でも楽しめます。農作業を通じて、交流と健康づくりをしています。



阿児地区：ふくし座談会の取り組みについて紹介します！

「ふくし座談会」を、6月に鷺方地区、11月に神明地区において行ない、自治会役員、民生委員・児童委員、福祉委員等の皆さんと地域の課題について話し合いました。

人口規模の大きいこれら2つの地区から、以前より隣近所との関わりが少なくなっているとの声が聞こえていました。更に新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、祭りや行事の中止や縮小も相次ぎ、人と交流する機会も減っています。

隣近所同士のさりげない見守りや声掛けなど、地域の見守り活動をいかに進めていくか、今後も話し合いを続けていく予定です。



磯部地区：志摩オレンジカフェを紹介します！

志摩オレンジカフェ（認知症カフェ）は、認知症の人と家族、介護・医療の専門家、地域住民が集い、交流や情報交換を行なう場です。



磯部町では毎月第一金曜日に開催することで、毎回参加してくれる常連さんもできつつあり、同じ時間をともに過ごす地域でのつながりの場所としても機能してきています。もちろん、認知症や介護、健康などについての身近な相談もできますので、お気軽にお立ち寄りください。

志摩市社協ボランティアセンター

志摩市社協ボランティアセンターは、志摩市内におけるボランティア活動の普及・推進の拠点として、志摩市社会福祉協議会が運営しています。

ボランティアに関する各種相談、ボランティア保険の加入手続き、ボランティア活動や団体の紹介など、ボランティア活動に関する様々な支援を行なっています。

また志摩市社協ボランティアセンターでは、市内のボランティア活動の推進を目的に、ボランティア活動を始めたい方に向けた各種ボランティア養成講座を開催しています。今年度は2つのボランティア養成講座を開催しました。

ガイドヘルプボランティア養成講座

視覚に障がいがあり1人での外出が困難な方に付き添い、外出を支援する『ガイドヘルプボランティア』を養成する講座を全4回で開催しました。



講座の中では視覚障がいについての知識やガイドヘルプの実技などを学び、あいふえすた（三重県視覚障害者福祉大会）

では実際に参加者のガイドヘルプを行いました。

講座の修了者は、志摩市視覚障害者福祉会との交流や福祉学習への協力など精力的に活動を行っています。



災害ボランティアコーディネーター養成講座

19名の方に参加していただきました。

講座では災害ボランティアセンターについての基礎知識から、災害ボランティアセンターにおける自身の役割を考えるグループワーク、ICT（スマートフォン）を活用した災害対応を学びました。

地震や台風など災害が発生し、被災地の復興復旧にボランティアの力が必要な場合、ボランティアを受け入れる災害ボランティアセンターが開設されます。そのセンターを運営するボランティアを募る災害ボランティアコーディネーター養成講座を全3回で開催



ボランティア保険のご案内

安心・安全なボランティア活動を行なうため、ボランティア活動中の怪我や賠償責任を補償するボランティア保険があります。

令和4年度よりボランティア活動保険に特定感染症の補償を含む新プランが設立され、より安心してボランティア活動に取り組めるようになりました。

加入手続きや保険の詳細については、志摩市社協ボランティアセンターまでお問い合わせください。

問い合わせ先

志摩市社協ボランティアセンター 電話：0599-55-3885 / FAX：0599-55-4014

ホームページ：<https://shima-fukushikyo.or.jp/CCP027.html>